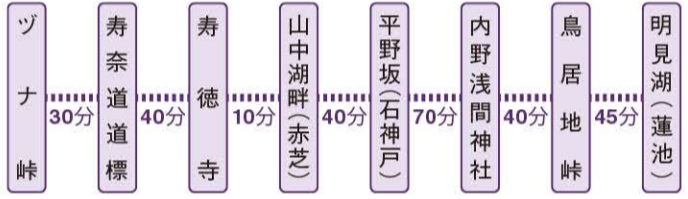


# 鎌倉街道の概要

鎌倉と甲斐を結ぶ道で、東海道方面から富士山へ参詣する人々が多く利用した。江戸時代の後半以降は、山中湖の西岸を経由する籠坂越が主要ルートとなった。国道138号は、その後身である。これに先行するのが、ツナ坂(ツナ峠)を越えて、平野(山中湖村)から湖水の東岸を経て明見(富士吉田市大明見・小明見)に至るルートで、カクラミチ(鎌倉道)の称がある。『甲斐国志』も、この道筋を「古道」と呼んでいる。周辺には、富士講中が水行の場や巡礼の対象とした山中湖や忍野八海(忍草の「元八湖」)があり、人々の信仰を支え長く役割を担った。



## 鎌倉道を歩こう! (ツナ坂越)



## 鎌倉街道を歩こう! (籠坂越)



## スポット 2 籠坂越(山中経由)

宝永4年(1707)の富士山噴火では、多くの噴出物が籠坂峠付近に降り積もった。険しかった峠がなだらかになり、駿河からの道は、籠坂峠越が主流となった(甲斐国志)。吉田・須走という富士登拝の拠点を結ぶほか、山中湖や元八湖(忍野八海)につながる信仰の道として多くの信者を支えた。近代以降は、馬車鉄道が敷設されたほか、国道として整備が進んだ。

**山中口留番所跡**  
山中は、室町時代から一貫して交通の要地であり、江戸時代を迎えると街道の往来を改める口留番所が設けられた。宝永元年(1704)、谷村(都留市)を拠点に都留郡を領した秋元喬知は武州川越へ移封となったが、その家臣大山政右衛門は番所の関守を続け、この任は大山氏が世襲した。番所では富士山へ参詣する道者も改められた。幕末の史料には、道者が負担すべき通行料を吉田の御師が一括して精算していたことを物語る帳簿が伝わっている。文政6年(1823)に富士山へ詣でた大坂の鍛冶職人の記録には、山中の「行場」で「水行」をしたとあり、番所を通った道者が山中湖で身を清めたことがわかる。



## スポット 1

### ツナ坂越(平野経由)

駿河国日向村(小山中町日向)から甲斐国平野村(山中湖村平野)に至る古道で、三国山稜の鞍部のツナ坂を越えた(甲斐国志)。宝永4年(1707)の富士山噴火以前は、「専らツナ坂越を往来した」とある主要な交通路である(同書)。平野には「寿奈道」や「津奈道」と刻まれた道標が残っている。武田信玄が駿河東部に侵攻した際にも、この道を進軍したとの伝承がある。

### 平野口留番所跡

他領から来る旅人や荷物の検査をするための見張り所のことを口留番所といい、ツナ坂を甲斐国側に入ったところに設けられていた。残された絵図には湖までせり出した矢来と呼ばれる欄が描かれている。現在、この地には「関口」という地名が残っている。



### 寿徳寺

文応元年(1260)、鎌倉建長寺の美山玄普禅師により臨済宗の寺院として開かれた(現在は京都妙心寺の末)。平野の古屋にあったが、元禄16年(1703)11月の長雨に続く地震により、現在地に遷ったと伝わる。平野村の名主家に伝来した永禄11年(1568)11月3日付の「武田家朱印状」を保管している。甲駿両国を結ぶ「通路」の遮断を理由に、平野住民の税負担を免除するとしており、ツナ坂越の重要性を伝えている。



## スポット 3

### 山中湖

富士五湖のうち東端にあり、面積は6.57km<sup>2</sup>と最大で、海拔は980.5mと一番高いところにある。桂川の最上流部が堰き止められて誕生した堰止湖である。内八海の一つ。



### 鯉奉納碑

享和元年(1801)に、現在の埼玉県寄居町を拠点とした富士講の丸正講が鯉の放流をし、殺生を戒める宗教行事の放生会を行った。これを記念した石碑には、富士講行者食行身縁に最期まで随った田辺重郎右衛門の次男の承諾を引く吉田御師中雁丸由太夫の名も刻まれている。なお、現在この石碑は、山中湖畔にあるが、かつては山中観音堂(現在の山中小学校入口)にあった。

### 忍草浅間神社

忍草の氏神。現在の社殿は、江戸時代の半ばに建立された。木花開耶姫・鷹飼・犬飼の三体の坐像を祀っている(国指定重要文化財)。いずれも一木造(いちぼくづくり)で、丹後(京都府)の仏師静存が、正和4年(1315)に造立したと像底に記されている。



## 平野坂

内野から平野へ向かう峠道を平野坂という。江戸時代の道は、内野の神原付近から谷筋に沿って上り、石神戸(芙蓉台別荘地の東脇)を越えて平野の赤芝に至る道と考えられる。この平野坂付近には、『甲斐国志』で「古道」とされている道やさらに古い時代の道の痕跡も残っている。

### 内野浅間神社

内野の氏神。本殿は一間社流造で、貞治2年(1363)の年紀を記す棟札が伝わる。現在の社殿は、軒などの装飾から、江戸時代後半(19世紀)の建立とみられる。神体として高さ10cm強の尊像を祀るが、宝冠をかぶり定印(じょういん)を結んでいることから、大日如来像として造立されたことが知られている。

### 鳥居地峠

ツナ峠を越え、平野から山中湖の東岸を進んだ鎌倉道は、内野・忍草(忍野村)を経て、鳥居地峠にかかる。大明見と小明見(富士吉田市)を画す稜線(仁王坂)を越すと、明見湖(運池)のほとりになる。道者は、ここで水垢離を行い、身を清めてから富士山へ向かった。かつて峠には「富士大権現」の額を掲げた鳥居が立っていた。富士山の信仰世界への入口を意味したのだろう。額は忍草の浅間神社に伝来する。



## 東円寺

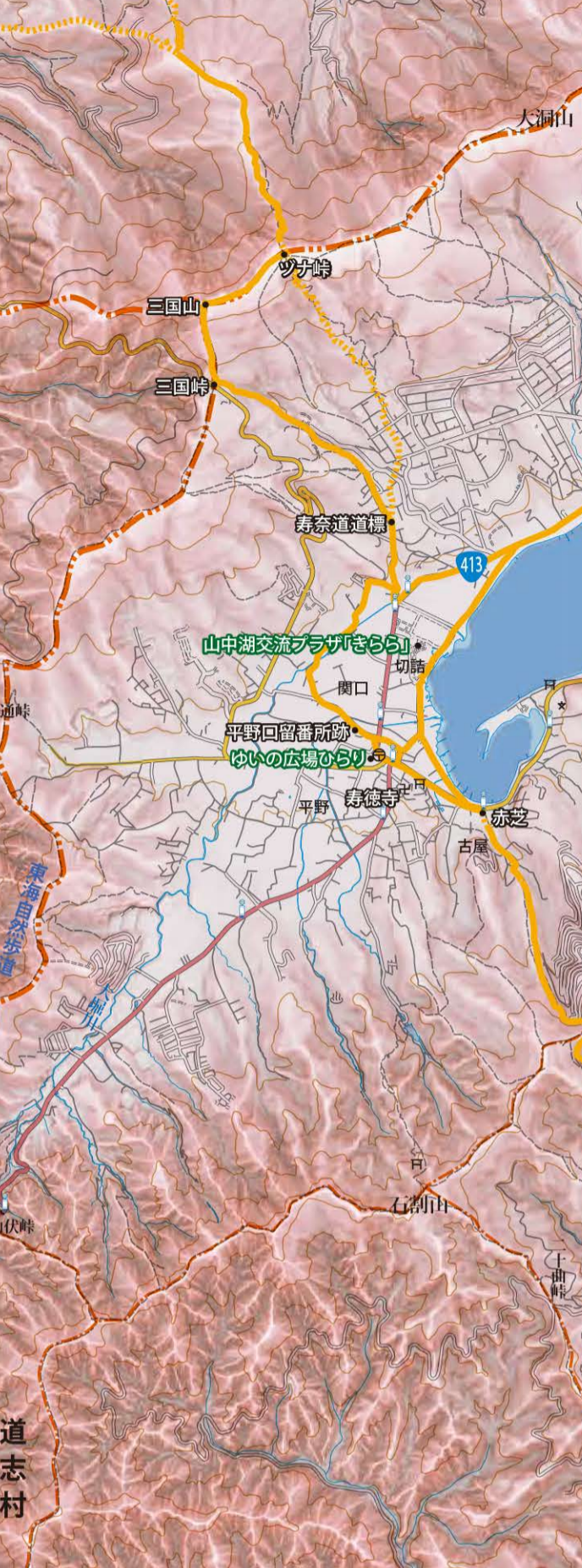
忍草山と号する天台宗寺院。文保4年(1320)に仏師静存が造った聖観音菩薩坐像や天正6年(1578)の造立銘をもつ大日如来坐像など、多くの寺宝が伝わる。明治初年の神仏分離に伴い、忍草浅間神社から別当を務めていた当寺にもたらされた。不動明王立像は、吉田一合目に所在する鈴原神社(旧大日堂)に祀られていたもので、神仏分離により、当寺にもたらされた。このほか、19世紀半ばの大我講による元八湖(忍野八海)の「再興」について物語る版木や古文書などを収蔵する。



## スポット 4

### 忍野八海(忍草の「元八湖」)

富士山からの伏流水が溶岩の亀裂から湧き出した湧水池群で、出口池・御釜池・底抜池・鏡子池・湧池・濁池・鏡池・菖蒲池の八池からなる。昭和9年(1934)に天然記念物の指定を受け、同60年に環境庁の名水百選に選ばれた。面積は、1.467万余の出口池が最も大きく、湧水量は毎分470ℓの湧池が最も多い。天保14年(1843)には、大我講を起こした八代郡市川大門村(市川三郷町)の大寄友右衛門が、忍草村内の八池を「元八湖」と称して巡拝行を「再興」した。



### 富士参詣の道を往く

赤色立体地図で見る — 鎌倉街道MAP

凡例  
— 富士道・富士山道 — 鎌倉街道 — その他古道  
点線は現在通行不可  
構成資産・構成要素 観光案内所・道の駅等 その他スポット  
① 観光案内所 ② 道の駅 ③ バス停

## 観光案内所・道の駅等

施設名称	TEL	トイレ有無
はず池体験工房	0555-22-3016	有
小佐野家住宅復原(ふじさんミュージアム庭内)	0555-24-2411	有
三ツ峠グリーンセンター	0555-25-3000	有
忍野村観光案内所	0555-84-4221	有
山中湖観光案内所	0555-62-3100	有
山中湖交流プラザ「きらら」	0555-20-3111	有
ゆいの広場ひらり	0555-28-7577	有
道の駅なるさわ	0555-85-3900	有
道の駅かつやま	0555-72-5633	有
河口湖フィールドセンター	0555-72-4331	有
河口湖自然生活館	0555-76-8230	有
大石袖伝統工藝館	0555-76-7901	有
西湖ネイチャーセンター	0555-82-3111	有
精進湖観光案内所	0555-87-2651	有
本栖湖観光案内所(冬季休業)	0555-87-2518	有
みのぶ観光案内所(NPOみのぶ観光センター)	0556-42-2005	有

※季節、時間帯等によりトイレが利用できない場合があります。また、一部施設では有料施設内にトイレが設置されています。  
地図の作成に当たって、国土地理院発行の数値地図(国土基本情報)を使用  
赤色立体地図©アジア航測:国土地理院発行基礎地図情報10mメッシュを使用  
(国土地理院承認番号 平28情発第1285号)

